

100号を迎えて



100号記念誌について思う

(社)日本技術士会 北海道支部 顧問
技術士（応用理学部門）

佐々木 敏 雄

コンサルタンツ北海道がこの度100号に達し、記念特集号の発行を企画されました事は発行当初より会誌発行に参画しておりました一人として誠に感慨深いものがあります。

昭和41年1月29日自治会館に於いて北海道技術士センターの設立総会が近畿支部の茂森技術士、本部より高田事務局長の参列を戴いて開催されました。同年5月28日日本技術士会総会において全国5番目の支部として承認されました。センターは支部を全面的にバックアップする事を基本としました。有資格者50名、支部会員20名での発足で初代支部長、北海道技術士センター会長そして技術士会本部理事を兼ねられたのは、第1回合格者で小樽市の船舶部門の石山技術士でした。石山技術士は国の責任で技術士に与えられた「権威と信用」を本道に於いても具体的に活用する事を提唱され、自ら札幌在住の技術士を訪問され道内に於ける技術士制度の普及と社会的地位の向上の為技術士団体の必要性を強調されました。その熱意に感銘を受けた私は上司の了解のもとに勤務先である北海道開発コンサルタント(株)が事務局を担当する事になり瀬藤専務が副会長、私自身事務局長を引き受けました。

昭和42年4月に北海道技術士センター会報第1号が発行されました。会報第1号はご存知のない方が多いと思いますので抜粋でご紹介申し上げます。

巻頭言は石山会長の「高遠の目標に向かって手を握りあって進みましょう」が掲載された外技術士(第1次)受験地として福岡市と共に札幌市に決定した事の経過報告があり、昭和41年6月9日水産ビルで

開催された第1回の理事会の出席者並びに議題は以下の通りでした。

出席者：石山会長、瀬藤副会長、小崎、武田、酒田、安細、中山、藤田、岡の技術士（現在は何れも故人）そのほか佐々木の10名。

議題：1) 事務局について；

土木学会道支部事務局に併置の案もあったが北海道開発コンサルタント(株)に設置する事に決定。

議題：2) 講習会の講師について；

受験準備講習会に協力の為下記の技術士を講師にお願いする事に決定。

青木 弘：建設部門（道開発コンサル）

武田 要吉：建設部門（北新測量設計KK）

中山 和夫：電気部門

（中山技術コンサルタントKK）

松井 寿一：農業部門（北海道開発局）

議題：3) 各理事の分担について；

庶務、経理：酒田、安細、中山、佐々木

広報：岡、武田、栗林

事業：小崎、藤田、竹内、高橋、重住

議題：4) 寄付金の募集に関する具体策について；

酒田理事より提起あり検討の結果一口2,000円とし道内のコンサルタント業務をおこなっている企業を主体に募金する事に決定

議題：5) 事業計画と実施対策について；

a) 技術士第一次試験（筆記）の札幌受験地実現運動

b) 技術士業務のPR活動

議題：6) 座談会のテーマについて；

本件については技術士受験準備講習会の折に本部の高田事務局長が来札されるので、これを機会に技術士会会報用の座談会を開催しそのテーマを〈北海道の声を聞く〉技術士業務開拓について、とし出席者を石山会長、栗林、岡、佐々木の各理事、横道北大教授、植田札幌通産局商工部長、高田日本技術士会事務局長と決定。

以上が第一回の理事会の概要で、更に昭和41年度の本試験の結果、日本中小企業指導センター理事館賢三氏の「望まれる技術士像」の論説の記載、事務局日記、編集後記以上が会報第一号で、この会報は昭和44年3月発行のNO.6迄続きました。

昭和42年5月9日開発局港湾部長室(港湾部長は栗林理事)に於いて北海道新聞社、北海道建設情報社、日刊建設情報社、北海道建設新聞社と記者会見をし、佐々木理事より本年度の技術士本試験に関して報道関係者にPRを行いました。昭和43年3月岡理事の尽力で電話番号簿に技術士の欄設置が決定した事、技術士本試験の試験官について要望があれば事務局に取り次ぐ事、又特に重点事項としては道内関係諸機関へのPR活動、発注関係諸機関への技術士利用の徹底などの記事を掲載しました。

コンサルタンツ北海道の名称は藤戸理事の発案で昭和44年11月NO.7号より使用され、その表紙のデザインは北海道開発コンサルタント(株)：建築都市部の瀬戸賢太郎氏に依頼したもので、このデザインはNO.78号迄続き平成8年6月発行のNO.79号よりA4版の現在の形式になっております。NO.7号の巻頭言を堂垣内先生にお願いしました。又田中日本技術士会会長、鷹田、倉橋両北海道開発局長にも初期のころ巻頭言の玉稿を戴きました。その後支部、センターは札幌商工会議所産業公害相談員としての参画、北海道開発と公害問題等のシンポジウムの開催、PE、CEに関する侃々諤々の問題、創立15周年を記念しての旧満州との技術交流、3回の全国大会の開催、会員増強に伴う支部、センターの組織の強化等その後の経過については会員の皆様よくご承知の事と思います。平成14年10月1日現在会報99号によるとセンター会員1,529名、支部会員373名との事、会員増強に尽力された関係者に心から敬意を表する次第です。冒頭に述べた様に設立当初より関与した一人として支部、センターと表裏一体のコンサルタンツ北海道のさらなる発展充実に心から念じて擱筆します。(石山初代支部長は昭和49年11月1日82歳で逝去されました)